

南ア深南 雨畑川支流 遠沢

遡行日：08年7月20日～21日

メンバー：三井

他会員3名

「遠沢」は2000年に荒木氏（退会）と行っているのだが今回、溪流釣りに傾斜している富士のB会にいるO君から「釣りをやりながらのんびり行きませんか。」と誘われ、「たまにはそういうのもいいか。」という事でその気になる。他に富士宮のF会に所属するM氏とNさん（女性）の2名が参加でまとまる。

猿沢橋の袂が小広くなっていて車をとめられる。ところが既に軽トラが一台止まっている。荷台をみても山仕事の車とは思えない。多分、釣師。出鼻を挫かれた感じ。

それはとも角支度を済ませスタート。入渓しななぼも歩かないうちにO君がストップの合図。早速ザックから竿を出して釣の支度。「えー、もうここから？」とは思うものの今回の山行はこういう事だろう。

O君とM氏は暫く竿を出しながら行くもどうも当たりが無いよう。僕も竿を持ってきているのだが出すまでもなさそう。一旦、竿を畳んで遡行に専念して進んで行くと前方に釣師が目に入る。「やっぱりな...。」

こういう時にはとにかく摩擦を起こさめよう話をつけて先行させてもらうようにするのが肝心。釣師が竿を上げたところで声を掛ける。釣師が振り向いたのだがその顔を見てお互いに「アーッ。」の声。なんと知り合いの人だ。その知人が溪流釣りが趣味なのは知っていて以前、溪流釣りの話しをしている時に「遠沢」が釣れる、と確か言っていたのを思い出した。正に奇遇という他は無い。

釣果を聞くとその知人は「ここまで全然当たりがない。」と渋い表情。この間の大雨で以前とは溪相が変わってしまっ

うも良くない、との事。

暫くそんな話しをしてから我々は先行させて貰う。この点は助かった。

間もなく12mの直瀑。右から巻いたがこの滝は中間が少しヌメっているが流芯の左から直登は可能だろう。

沢は全体的には河原状で滝も大きなものではなく遡行は容易だ。右俣を分け、5.6mの滝を快適に越えると登れない滝。左岸から巻きにかかるが落ち口にトラバースできず追い上げられ沢床に戻る。前に来た時とはどうもルートのとりが悪い。今日はあまり進んでも仕方ないので時間は早いテン場を探しながら行く。大きめの石がゴロゴロしていて中々いい所がない。それでも辛うじてまずまずのテン場を見つけツエルトとフライで幕を張る。疎林の下で枯れ枝が散乱していて薪を集める手間がいらぬ。直に焚き火の火がおき、のんびりと寛ぐ。

肝心の魚は夕まづめにM氏が辛うじて一匹吊り上げただけ。いい形のアマゴだった。

翌日、7時少し前に出発。所々に小滝混じりのナメ帯があつたりで美溪とはいえないがまずまずの溪相。淡々と遡行していく。

やがて奥の二俣。右は青笹山に、左は青枯山に出るのだろう。左に入る。

これが酷いガレ沢で少し動いても石が落ちそうで嫌らしい。

早々に右の尾根に逃げて稜線を目指すかうまいことに明瞭な鹿道があり、2時間ほどでその稜線にあがる。

小笹が敷き詰められたようになっていてその中にどっかと腰を下ろす。

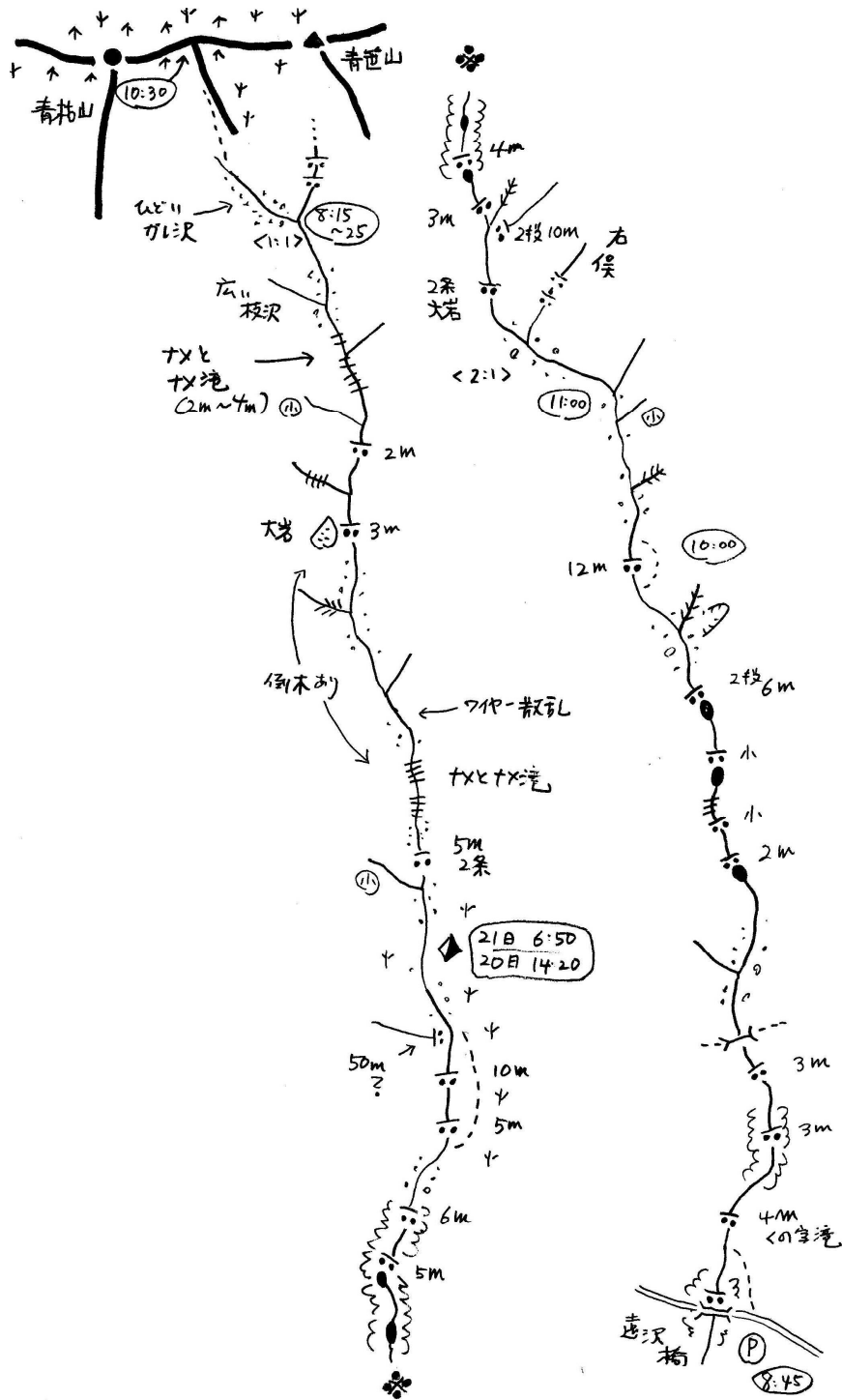
M氏とNさんは滅多に来られないところ、という事で青笹山のピークにピストンに空身で出かけ、僕とO君は昼寝。

一時間ほどでピストン組が戻り、腰を上げる。

僅かな登りで青枯山を越え少し南下した辺りから急な斜面を「西河内沢」の源頭を目がけて下る。

前に来た時には暫く下ると左岸側に伐採地があり、そこに仕事道があったのでそれを辿ったらあっさりと林道にでたのだが今回は下降点が違ったのかそれらしいところに出ず、沢も倒木やボサが邪魔したりして下り難く、うんざりしてきたので途中から枝尾根に移って下降して行く。薄っすらとした踏み跡がありそれを追って下ってくと間もなく小広い河原状の西河内沢の二俣にでた。

あとは右岸側の踏み跡を辿っていくと程なく林道と合流し、舗装された道を小一時間ほど歩いて車に戻る。



08年7月20日~21日
 南了深角 雨畑川支流 遠沢